

ステークホルダーの皆様へ




代表取締役社長
尾賀 真城

“ サステナビリティ方針に掲げたとおり
「人々の幸せな笑顔のために」
多様な価値を提供してまいります。 ”

はじめに、このたび新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、
また感染拡大の影響を受けられたすべての方々に謹んでお見舞い
申し上げます。

ウイルスの猛威は全世界的に拡大し、各国の社会経済に大きな
影響を引き起こしています。このような中、サッポログループは後述
する「サステナビリティ方針」の考え方を踏まえ、企業としての社会的
責任を全力で果たしてまいります所存です*。

* 当社の新型コロナウイルス感染拡大への対応方針と取り組みについては、
「重要なお知らせ」をご参照ください。

 <https://www.sapporoholdings.jp/announce/dit/?id=8643>

ステークホルダーの皆様へ

将来にわたり、サッポログループが社会から求められる企業であり続けるためには、事業活動の中で社会的価値、経済的価値双方の創出に努めつつ、その全体像をわかりやすく発信することが必要です。こうした取り組みは特定部署だけが担う課題ではなく、一人ひとりの日頃の業務が社会や環境の問題に繋がっているという意識を、グループ全体で共有しなければなりません。

そのような観点から当社では、2019年12月に「サッポログループ サステナビリティ方針」を策定するとともに、新たに策定した「グループ経営計画2024」においても「サステナビリティ経営の推進」を基本方針の一つに掲げています。サステナビリティ経営を推進していくことで、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に貢献するとともに、持続可能な社会と持続的な成長の実現を目指していきます。

“

取り組みの主役は
従業員一人ひとりであり、
人財はサステナビリティ
経営の基盤そのものです。

”

このうち環境課題に対しては、2019年9月に「サッポログループ環境ビジョン2050」を策定し、2050年までに自社拠点のCO₂排出量をゼロにする方針を打ち出しました。長期的なコミットメントではありますが、将来当社の中核としてビジョンの実現を担うであろう若手社員たちからも発信があり、経営として掲げたものです。

社会面では、質の高い商品の提供、新商品の開発等を通じてお客様に「潤い」をお届けすることが、まずはメーカーとしての責務です。またサッポログループは、不動産事業を通じたまちづくりに加え、工場や事業所の立地する数多くの地域と接点を持っています。自治体との包括連携協定の締結、住民の方々との交流等により、地域に根ざした事業活動を展開していきます。

こうした一連の取り組みを担うのは一人ひとりの従業員であり、人財はサステナビリティ経営の基盤そのものです。グローバル人財の育成・獲得や女性活躍支援などの取り組みとともに、個々のチャレンジを支援する制度設計、楽しくやりがいを持って仕事に取り組める環境づくり等、引き続きダイバーシティ&インクルージョンを推進し、グループの人財価値を一層高めていく方針です。

一方、企業価値を高めるための基本的な仕組みそのものであるガバナンスについては、ホールディングスの機関設計を変更し、監査等委員会設置会社へ移行しました。これはガバナンス機能のさらなる強化と、経営の

監督・執行の明確な分離を目的としたものです。執行側に一定の権限を委譲することで、取締役会は重要案件の審議に集中でき、また経営全体のスピードアップが可能になります。

サッポログループは、お客様の認知度が非常に高い「ブランド」を複数取り揃えています。ブランドがブランドたるには、他にない独自性、ブレない継続性、いつまでも古びない時代性、これらの3要素が不可欠です。昔からあるのに新しい、常に新たな挑戦を続けている—そうした企業体として、私たちはサステナビリティ方針に掲げたとおり「人々の幸せな笑顔のために」多様な価値を提供してまいります。ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長

尾賀真城